

新工場電気代4割減

【横浜】南武(横浜市金沢区、野村伯英社長、045・791・6161)は、2015年5月に東京都大田区から移転した本社工場の年間電力料金を、移転前と比べ約40%削減した。軽量で耐食性のあるエア配管を採用し空気漏れをなくしたほか、コンプレッサの排熱を交場の暖房に使うなど節電対策に取り組んだ。今後も節電効果を検証し、省エネに優れた「エコ工場」としてアピールする。

省エネ機器・設備満載



南武は金型用油圧シリンダーが主力。本社工場はアルミニウム製パイプと樹脂製継ぎ手を組み合わせた日東工器製エア配管「エアライナー」の外径63ミリ径タイプを採用した。最大径のパイプにしたこと

とでエアタンクをなくした。パイプに穴を開けてブラケットを装着するだけで空気の取り出し口を設けられる。発光ダイオード(LED)照明や省エネ型エアコンなども採用した。

移転前の14年4月～15年3月と移転後の15年6月～16年5月の1年間で消費電力と電力料金を比べ、消費電力は約30%減、電力料金は約40%減と大幅に低減した。

電力消費が増える夏と冬の最大需要電力(デマンド値)をそれぞれ比較すると、15年7月のデマンド値は前年同月比約32%減の180キロワット、16年1月は

同約31%減の174キロワットとなった。

事務所を含む本社工場の床面積は旧工場が約1649平方メートル。新工場は工場部分が縮小したものの全体では約2082平方メートルに拡大したが、省エネ機器の導入や設備更新などで節電を実現。今後も塗装ブースに人感センサーの採用を検討するなど節電に努める。

日刊工業新聞

2016年8月4日